

平成25年度 第1回 よこはま多世代・地域交流型住宅整備・運営事業者選定等委員会 会議録概要	
日 時	平成26年3月18日(火) 17時00分～19時10分
開催場所	関内新井ビル4階会議室
出席者	【委員 5名】青木委員、越智委員、松岡委員、村井委員、矢田委員
欠席者	なし
開催形態	公開
議 題	1 横浜市有地を活用したよこはま多世代・地域交流型住宅進捗状況について 2 よこはま多世代・地域交流型住宅の事業展開について (1) 事業展開に向けた検討事項 (2) 事業展開の考え方 3 26年度のスケジュール 4 その他

議事要旨	
開会	
委 員 長	開催
事 務 局	(あいさつ)
委 員 長	定足数の確認 5名中4名の出席。過半数の出席を確認
議題1 横浜市有地を活用したよこはま多世代・地域交流型住宅進捗状況について	
事 務 局	この議題に関して、当委員会条例第9条により、関係者(事業者)出席あり
事 業 者	図面、スケジュール等説明
委員・事業者	質疑、意見 ・お問い合わせ状況 ある。内容としては、「いつできるのか」「家賃」「入居優先」が多い。 ・建築関係では労力の問題、物資の高騰という話もあるが順調か 工期も長いので、状況を見極めながら進めていく。 ・3月29日のイベントについて(参加見込み人数等) 200人ほどの規模を想定し、広報している。 ・運営協議会について(次回 開催時期、メンバーなど) 4月に予定。メンバーも新たにふさわしい方がいれば、柔軟に加わっていただく ・サインについて 未定 ・パンフレットについて(住宅全体のパンフレットは作るのか) 未定だが、交流できる新しい住宅であることを盛り込みたい。 ・子育て支援の観点では、病後児、緊急時の保育支援もできるとよい

議題2 2 よこはま多世代・地域交流型住宅の事業展開について

(1) 事業展開に向けた検討事項

事務局	説明
委員・事務局	<p>質疑、意見交換</p> <p>■高齢者世帯と一般世帯の割合について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局案は、6～7割 ・数字で決めないといけないのか ・一般住宅の例示の学生を単身者と表記したほうがよい ・数字で一律にするのではなく、地域によって考えてもいい ・ある程度の数字を決めないと、不公平感が出てしまう ・高齢者の中でも交流を考えると元気な高齢者の割合が問題 ・多世代・交流型ということで、介護予防の意味合いを強めたものはどうか。 <p>■よこはま多世代・交流型住宅として30戸以上とすることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30戸の根拠は、地域密着型の介護付き有料老人ホームの定員が29人以下となっているのを参考にしている ・運営を考えても30戸はほしい ・戸数が少ないと、スケールメリットがないので、コーディネーターの人件費が重くのしかかる ・50戸以上となると、面積も広く必要となる <p>■入居者、地域住民との多世代交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを配置ということは書かなくてもよいのか ・コーディネーターは必置でなくても、事業者工夫でコーディネーター機能を担う人を配置でもよいのではないか ・地域との交流スペースであって、地域が対象になるなら地域との連携は外せない ・「一般世帯入居者の魅力となる」となっているが、一般世帯に限った魅力ではない →地域との連携を追加、「一般世帯入居者の魅力となる」を削除 →「コーディネーターをなるべくおくこと」を追加 <p>■指導指針等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サ付きの指針を優先的に適用し、その他の部分はこの委員会の意見をもとに作成していくという案は妥当 <p>■事業者のメリットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金については、委員会でもっと額を上げた方がといても難しいことなので、このままでよい ・認証マークがあるとわかりやすい ・市の後ろ盾があること、定期的な評価が入ること、アドバイスがあることは、メリットとしてみることができる ・市が関与していることによる、市民の安心感は大きい ・事業者も市が関与していることで、地域に入っていくやすいのではないかと

	<p>■委員会の関与について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこまで認定審査基準で定められるか ・すべて基準に照らし合わせればよいような基準ができれば、認定のたびに委員会は開催しなくてよい ・なかなか基準だけでは判断が難しい項目もあるのではないか ・作った基準を定期的に見直していくことも必要 ・評価といっても、利用者、地域、委員（見学）、行政、運営協議会など評価する人や機関はたくさんある。 ・書類だけで審査するのは難しいから、現地視察も必要ではないか。 ・認定や評価以外についても、必要と認める時に、必要な事項についてご意見をいただきたい
<p>議題2 2 よこはま多世代・地域交流型住宅の事業展開について (2) 事業展開の考え方</p>	
事務局	説明
委員・事務局	<p>質疑・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流スペース、2㎡×戸数は、妥当だと思う ・多世代交流を全面にうたっている中で、民有資産の部分ではトーンダウンしている計画があればいいのではなく、計画の質をどう問うのか ・運営協議会およびそれに準ずるものをもってほしい
<p>議題3 26年度のスケジュール</p>	
事務局	説明
委員・事務局	<p>質疑・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民有資産として、候補や可能性としてあがっているものはあるか。 ・工場や、地主さんの地域貢献のひとつとしてのお話がある ・30戸という目安があると、話もしやすくなる
<p>議題4 その他</p>	
事務局	事業所管の変更について説明
<p>閉会</p>	